

平成 26 年 度

川崎市下水道事業会計決算概況

川崎市上下水道局

1 平成26年度 下水道事業会計決算概況

(1) 総括事項

下水道は、市民の快適な生活環境の実現と公共用水域の水質保全及び雨水排除等のために欠くことのできない都市の基幹施設であり、平成26年度も引き続き、本市の重要施策の一つとして、事業に取り組んでまいりました。

平成26年度は、「川崎市下水道事業中期計画」に基づき、東日本大震災や近年の気候変動に起因する局地的な集中豪雨をふまえた地震・津波対策や浸水・ゲリラ豪雨対策、さらには、老朽化対策、高度処理、合流改善、地球温暖化対策など、下水道が抱える課題を解決するための様々な取組を確実に進めてまいりました。

一方、財政面では、下水道経営の健全化を図るため、引き続き事業運営の効率化に努めてまいりましたが、平成26年度からの新地方公営企業会計基準の適用に伴い、過年度の減価償却費を修正したことや退職給付引当金の一部を計上したことなどにより、当年度純損失を計上しました。また、過去の建設投資の影響により、未だ企業債残高は高い水準にあり、依然として厳しい財政状況にあります。

(業務の状況)

平成26年度末における処理面積は1万700ha、処理人口は145万7,961人で、人口普及率は99.4%に達しています。

また、有収水量は1億4,661万9,547 m^3 で、下水道使用料は税抜きで221億700万2,701円です。

(建設及び改良工事)

平成26年度の建設改良費の決算額は、前年度からの繰越事業費を加えて、155億8,604万2,058円となっております。

また、69億9,800万円を平成27年度に繰り越しました。

主な建設改良工事として、管きょについては、水洗化の普及、浸水地域の解消を図るため、下水幹枝線工事を施行しました。また、災害時を含めた下水道機能の確保及び道路陥没等の二次的被害の発生を防ぐため、老朽化の著しい管きょの再整備や耐震化工事を施行しました。

貯留管関連については、前年度に引き続き、大師河原貯留管の建設工事を施行しました。

ポンプ場については、大島、六郷、京町、観音川、加瀬、江川ポンプ場等で設備の更新工事などを施行しました。

水処理センター等については、入江崎、加瀬及び等々力の3水処理センター並びに入江崎総合スラッジセンターの更新工事を施行しました。

また、入江崎水処理センターにおいては、前年度に引き続き、西系の再構築（高度処理対応）工事を、加瀬水処理センター等においては施設の耐震化工事を施行しました。

2 平成26年度 下水道事業会計決算総括表

(1) 予算執行状況

ア 収入（税込額）

(単位 円)

科目	予算額	決算額	増△減	執行率
収益的収入	45,969,291,000	46,148,993,541	179,702,541	100.4%
資本的収入	53,859,615,000	45,570,665,519	△ 8,288,949,481	84.6%
合計	99,828,906,000	91,719,659,060	△ 8,109,246,940	91.9%

イ 支出（税込額）

(単位 円)

科目	予算額	決算額	増△減	執行率
収益的支出	44,455,282,000	45,986,488,278	1,531,206,278	103.4%
資本的支出	71,240,403,000	63,157,587,958	△ 8,082,815,042	88.7%
合計	115,695,685,000	109,144,076,236	△ 6,551,608,764	94.3%

(2) 収益的収支・資本的収支

ア 収益的収支（税込額）

(単位 円)

区分	収入	支出	収支差引
収益的収支	46,148,993,541	45,986,488,278	162,505,263

収益的収支差額（税抜額） = 当年度純利益（△純損失） △ 520,561,679

イ 資本的収支（税込額）

(単位 円)

区分	収入	支出	収支差引
資本的収支	45,570,665,519	63,157,587,958	△ 17,586,922,439

資本的収入額（翌年度へ繰り越される支出の財源に充当する額 5,288,000円は除く）が資本的支出額に不足する額 17,592,210,439円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額678,025,776円、繰越工事資金 78,880,000円、減債積立金 858,206,702円及び当年度分損益勘定留保資金 15,977,097,961円で補てんした。

(3) 資金過不足額

ア 平成26年度単年度資金過不足額

(単位 円)

区分	金額	備考
当年度純利益（△純損失） (A)	△ 520,561,679	<補てん財源等の内訳> ・当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 678,025,776 ・繰越工事資金 78,880,000 ・減債積立金 858,206,702 ・当年度分損益勘定留保資金 17,640,975,861
資本的収支差額 (B)	△ 17,586,922,439	
補てん財源等 (C)	19,563,457,350	
単年度資金残額（△資金不足額） (A) + (B) + (C)	1,455,973,232	〔 減価償却費等 17,424,255,478 固定資産除却費 216,720,383 ・退職給付引当金 307,369,011

※単年度資金残額には翌年度へ繰り越される支出の財源に充当する額 5,288,000円を含む。

イ 累積資金過不足額

(単位 円)

区 分	平成 25 年度 末 資 金 残 額 ※	平成 26 年 度 単 年 度 資 金 残 額	平成 26 年 度 末 資 金 残 額
資金残額	2,348,166,289	1,455,973,232	3,804,139,521
うち退職給付 引当金	-	307,369,011	307,369,011

※前年度資金残額から、補てん財源（繰越工事資金及び減債積立金）を除いた金額。

(4) 経営成績（税抜額）

(単位 円)

科 目	金 額	科 目	金 額
営 業 費 用	34,178,330,160	営 業 収 益	34,978,105,632
営 業 外 費 用	8,318,448,488	営 業 外 収 益	9,345,537,344
特 別 損 失	2,471,395,309	特 別 利 益	123,969,302
総 費 用	44,968,173,957	総 収 益	44,447,612,278
当年度純利益	-	当年度純損失	520,561,679
前年度繰越 利益剰余金	184,507,583	前年度繰越 欠損金	-
その他未処分 利益剰余金変動額	858,206,702	-	-
当年度未処分 利益剰余金	522,152,606	当年度未処理 欠損金	-

(5) 財政健全化法における資金不足比率の状況

会 計 名	資 金 不 足 比 率	経 営 健 全 化 基 準
下 水 道 事 業 会 計	- (資金不足となっていない)	20%

※資金不足比率は現段階での速報値である。

3 業務の状況

項目 \ 年度	平成 26 年度	平成 25 年度	増△減（％）
総人口（人）	1,466,444	1,453,427	(0.9 ％) 13,017
処理人口（人）	1,457,961	1,444,545	(0.9 ％) 13,416
人口普及率（％）	99.4	99.4	(0.0 ％) 0.00
処理面積（ha）	10,700	10,693	(0.1 ％) 7
排水区域面積（ha）	10,700	10,693	(0.1 ％) 7
水洗化対象件数（件）	689,125	679,025	(1.5 ％) 10,100
水洗化件数（件）	684,988	674,721	(1.5 ％) 10,267
水洗化助成件数（件）	104	56	(85.7 ％) 48
年間処理水量（m ³ ）	203,577,000	200,903,467	(1.3 ％) 2,673,533
1日平均処理水量 （m ³ /日）	557,745	550,421	(1.3 ％) 7,324
年間有収水量（m ³ ）	146,619,547	147,786,688	(△ 0.8 ％) △ 1,167,141
管きょ布設延長（m）	3,103,350	3,089,642	(0.4 ％) 13,708
下水道使用料（円） （税抜額）	22,107,002,701	22,660,150,410	(△ 2.4 ％) △ 553,147,709

